

[主訴]

左側の顔面神経麻痺

[随伴症状]

筋痙攣なし、イライラあり、爪異常なし、眼精疲労あり、やや便秘気味、肩凝りあり、不眠あり

夜間頻尿なし、冷えなし

胃もたれなし、倦怠感なし

[経過]

1ヵ月前、夕食時に食べ物が口からこぼれたのがはじまり。最初は少し疲れているのだろうとあまり気にしなかったが、連続して食べ物がこぼれて異常を認識する。

翌朝症状は治まっておらず、鏡をみると顔の左側が麻痺していた。

左目が閉じられず常に少し開いた状態。

病院でステロイドを処方されたが麻痺の改善がみられないため不安になりインターネットで鍼灸治療に興味をもち来院。

[切診]

大腿内側陰経に圧痛あり、陽明経やや圧痛あり、全体的に冷感なし

[腹診]

鼠径上部やや圧痛あり、臍下不仁なし、胸部やや熱感あり

[脈診]

太さは平、やや緊張がみられる。
脈差は不明だが全体的に沈んでいる。

[証の決定]

肝虚熱証

[治療]

陰谷、曲泉の補法。
陽明経の瀉法。
後頸部天柱、風池、翳風浅刺瀉法。

[備考]

顔面神経麻痺は発症後すぐに治療するのが望ましい。当日にでも病院へ行きステロイド治療をするのもよい。ステロイドや抗ウイルス薬が顔面神経麻痺にどれほど有効なのかわからないが、実際に病院の治療

だけで回復する例も多々ある。

問題は、病院の治療で回復しない場合である。

その場合、発症後数か月して鍼灸治療を開始するわけだが、予後は悪い。

病院と鍼灸院の治療を同時に開始するのが理想である。

発症して6ヵ月が経つと症状の改善の見込みはほとんどない。

体感では発症して3ヵ月経つと症状の改善具合はかなり鈍化する。

今回の例は病院での治療で改善せず発症して1ヵ月経って鍼灸院に来院。1ヵ月で鍼灸院に来院するのはまだ早い方である。

発症後数日で来院する方もいるが、そういう方は元々鍼灸院に通っていたか、親族が鍼灸院に通っている場合がほとんどである。

急性疾患のため毎日来院するように告げる。

4週間で15回治療した。

初診で顔の動きにやや改善がみられた。

ほんの少しの改善だったが、本人はとても喜んでいく。

3診で客観的にも笑ったときの広角の動きがよくな

っているのがわかる。

11 診までに食べ物が口からこぼれる症状がかなり改善された。

13 診で外観も左右違和感なくほぼ完治の状態だったが本人の希望で治療を継続し計 15 診で治療を終了した。

顔面神経麻痺はとにかく早期の治療を強くすすめる。